

## 日本のエイズ現状と課題 抗体検査と相談体制

特定非営利活動法人ふれいす東京  
池上千寿子

### 抗体検査をすすめる目的

- HIV陽性者を早期に発見すること。
- HIV陽性者が適切な医療につながること。

その結果エイズ発症で発見される人が減る。

## 誰のための検査なのか？

- ・「陰性検査システム」とは  
検査をして陽性者を発見して排除するための検査

告知のやり方によって医療不信につながる。  
検査前後の情報が不十分なために本人に  
不利益が生じかねない。

## 検査＋相談という体制

- 1 検査前： 検査が必要か否か  
検査の意味  
検査結果の意味  
検査への納得と同意
- 2 検査後： 検査結果の告知  
適切な情報提供  
ケア・支援のスタート

## 検査の選択

- 通常検査
  - 迅速検査
  - 自宅検査キットによる検査
  - ☆保健所・検査機関による検査
  - ☆医療機関による検査
  - ☆イベント系検査
- (集団、強制、無断検査は行ってはいけない)

## 迅速検査のメリット・デメリット

### メリット

- ・結果がすぐわかる
- ・時間の節約

### デメリット

- ・結果がすぐわかる
- ・結果への準備ができない
- ・判定保留というつきはなし

## HIV検査にまつわる課題

- 20、30、40歳代で発見する。
- 感染に対する否定的な態度や偏見(個人および社会、内在&外在)がある。
- 孤立する。
- 感染後の生活のイメージがむすべない。
- 医療体制の不備、不均衡である。
- 告知直後&長期療養生活へのケアと支援が必要である。

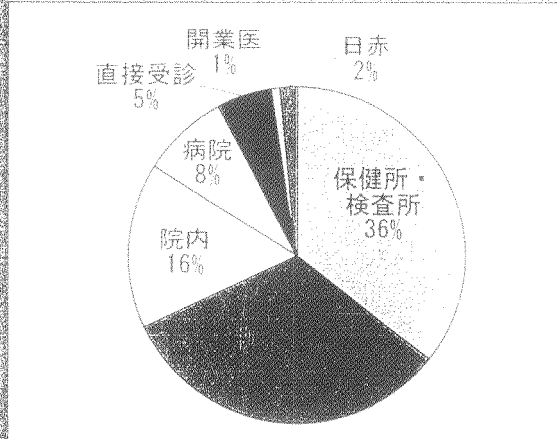
### 厚生労働省エイズ発生動向委員会報告 HIV/AIDS全報告数のうち保健所からの報告

2005	331/832	40%
2006	440/952	45%
2007	508/1048	50%

○エイズ発症報告数は横ばい傾向  
全報告の25%

# HIV陽性という経験

## いつ・どこで気づくのか～その2



**AIDS発症 21.9%**

東京医科大学病院の例、有名検疫病院にて  
(2004エイズ学会発表から)  
2001年1月～2003年12月までの新発者 N=228

### 陽性告知とソーシャル・サポートの変化

